



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



プラスチックのゴミが多いなあ！

自分たちができることを
考えてみよう！



なぜ、海外のゴミが
新潟の海に漂着しているの？

きれいな海を取り戻すには、
どうすればいい？

ゴミを減らそう！
地球温暖化防止も！



写真は、令和元年7月10日に総合的な学習の時間で訪れた新潟県上越市の港に漂着していたゴミを拾っている様子です。

この日に行われたゴミ拾いと魚釣りから大きなヒントを得て、
只見中学校のESD・海洋教育がスタートしていきました。

いろいろなことがつながり、新聞紙を使ったレジ袋の作成やウニの飼育が只見中学校におけるESD・海洋教育の大きな取組となっています。

取組の様子は、学校のホームページにも詳しく掲載されています。
(http://kir523528.kir.jp/?page_id=44)



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



自然体験学習で
恵まれた自然に感謝し…

日本有数の豪雪地帯！
この雪は…只見川から
海まで流れているんだね



只見町は日本有数の豪雪地帯であり、厳しくも豊かな自然と、それに基づく文化によりユネスコエコパークに認定されています。**町内の小中学校はユネスコスクールとして認定され、地域の持続的な発展を踏まえたESD教育を学校教育の柱にしてきました。**そこにグローバルな視点を持つ子供を育てていくため、海洋教育の視点を付加した現在の取組へと発展させています。

只見中の教育目標は「考える生徒」です。**グローバルな視点を持ち、課題の解決のために熟議してアイディアを出し合い、地域のことを考えローカルに実践する生徒は頼もしく、まさにESD教育の目指すところです。**

只見町内の小中学校そして只見高等学校を加えた5校はESD教育をもとに連携し、「グローバル・リーダー」の育成に取り組んでいます。



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



海外のゴミも日本に漂着している！



海からだけでなく川からも流れてきているんだよね。

もしかして・・・新潟には只見からのゴミも・・・



私たちの住む只見に降る雪、そしてとけて流れる川の水は、豊かな自然を支える命の水として海へつながっています。その視点をもとに、新潟県上越市の海岸でゴミ拾いを行い、実態調査を行いました。大量のゴミが海岸に漂着していることが分かり、ゴミを減らすためにはどうしたらいいかを考えるきっかけとなりました。海外のゴミも多く漂着していることが分かり、ゴミの問題は、**日本だけではなく、世界的な問題であるということが分かりました。**特に、プラスチックごみを減らしたいという気持ちが高まりました。



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



令和元年11月、日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏を招き、全校生対象のESD・海洋教育を行いました。キリバスの温暖化の現状を知って、大きな衝撃を受けました。**地球温暖化についても改めて知り、身近なところから何ができるかを考えるきっかけ**をいただきました。

ブナセンター、ブナ林の見学を通し、自然の素晴らしさを改めて感じるとともに、「SDGs」の各目標についての学習も進めました。2年生は、**「SDGs」の目標をもとに、自分ができる取組を宣言**し、校長室前と教室に掲示しました。



カリキュラム・マネジメントの視点で、音楽科での「SDGs」の歌

- 全員の前で歌ったのがよかった。
- 班のみんなで楽しく作ることができて良かった。
- 良くできたのでよかった。
- みんなで協力してできたので良かった。
- もっといろいろな発展できたらいいなと思った。

- みんなで協力して作れたのでよかった。
- 楽譜が簡単でよかった。
- 楽譜を見て楽しかった。
- 様々な楽器を使った。楽譜が面白い方に時間がかかった。
- 追加したことは、リズムを工夫しました。変更したことは、みんなの意見が合わないところがあったこと、楽しくできたことは、みんなで作れたこと。
- 今、環境を止めるために二酸化炭素を減らすということを歌詞にしました。
- イズムも覚えやすいようにしました。

1:35 / 3:40

生徒のアイデアから、音楽科の授業でSDGsの歌を作りました。森林伐採やプラスチックごみの削減、二酸化炭素の排出量を削減して地球の温暖化をストップするなどのメッセージが込められています。



海洋教育の視点を付加したESDの取組

只見中学校



考えたことを行動に移してきました。



只見中学校の2年生が
海洋プラスチック削減のため
新聞紙でレジ袋を提供しています



1:35 / 3:40



プラスチックごみを減らしたいという思いからはじまったのが、新聞紙によるレジ袋作成です。2年生が中心で作成を進め、ポスターも掲示しました。「SDGs」の17の目標も意識して取り組んでいます。ある程度の重さに耐えることができるよう日々改良を加えています。



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



地域の商店へ
電話連絡し相談
の事前交渉をして
います。



商店の店主へ新聞レジ袋
の取組を紹介し協力を依頼
しています。



地元の薬局に新聞
紙レジ袋を納品



只見町内で新聞紙によるレジ袋を利用してほしいと考え、宣伝活動を行いました。只見町内のコンビニエンスストアに電話でアポイントを取り、実際に店主に現物を紹介し、活用を依頼しました。中学生の熱い思いと行動力に対して、**地域の大人達が真剣に向き合ってくれています**。地域と学校が一体となって環境問題に取り組んでいます。

作成した新聞紙によるレジ袋を、地元の薬局に届けました。薬局では、積極的に新聞紙によるレジ袋を利用いただき、地域の方からも大変好評です。部活動が行われない放課後や昼休みに、新聞紙によるレジ袋作成を行っています。



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



全校生によるレジ袋制作

新聞社、テレビ局の取材の様子



今年度、新聞紙によるレジ袋作成は、全校生で行っています。3年生は後輩につくり方を積極的に教えるなど、全校体制で作成を行っています。依頼があればすぐに納品ができるよう、生徒が中心になり行っています。

8 働きがいも
経済成長も



メディアの取材が増えました。新聞紙によるレジ袋作成の様子については、地元の新聞社やテレビ局で大きく報道されました。インタビューに答える生徒の姿は堂々としていました。この取組に対し、小泉進次郎環境大臣からのコメントの報道もありました。

現在、米袋を利用したお酒を入れる袋づくりを、ミシンを使って慎重に制作しています。学級の話し合いから、レジ袋にメッセージを入れるなど、様々なアイデアがでています。

今後は、町民の方へ新聞紙レジ袋作成教室を開催し、町全体での取組に発展させたいと考えています。

11 住み続けられる
まちづくりを





海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



山の中での海洋生物バフンウニの飼育は新聞にも掲載されました。海を身近に感じる取組です。



受精の様子と受精3週間後のバフンウニの様子



海の生物を育ててみたいという思いから、バフンウニの飼育がスタートしました。令和元年12月、バフンウニの受精について学習しました。生徒は冬休み中、家に持ち帰り、温度管理に気を付けながら育てました。



バフンウニの飼育についても、地元の新聞社の取材を受けました。

成長する様子は只見中ホームページ海洋教育「ウニの部屋」に更新中です。



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



バフンウニは形が分かるほど大きくなり、生徒も責任をもって世話をしています。特に温度管理は慎重に行っています。

キャベツを餌として飼育した「**キャベツウニ**」の話題から、トマトを餌として、只見町の特産として産業化できないかなど**アイデア**が広がっています。



令和2年2月15日、**東京大学**で**全国海洋教育サミット**が行われ、只見町の取組を東京大学安田講堂で発表しました。

只見中学校は優秀賞を受賞しました。この会には只見町内の小学校も参加しました。只見町の取組が、そして只見中の取組が、全国に認められました。



海洋教育の視点を付加したESDの取組 只見中学校



CM撮影様子

手作りの「SDGs」
カラーホイール



明るい話題を只見町から発信したいという考えから、全学級が構想を練って、只見町のCM撮影を行いました。

新型コロナウイルス感染症に負けずに学校生活を送っていることを只見町の自然を背景に、ESD・海洋教育への取組を通して、自分たちに今できることは何なのかという視点で発信しました。



「SDGs」のカラーホイールも制作しています。
「SDGs」カラーホイールをESD教育のシンボルとして推進していきます。

今後は、只見町のブナの間伐材を利用して作成し、ブナ林の保護とブナ材の有効利用についても考え、発信していきたいと思います。